

演奏者プロフィール

出演日:10/27~10/29

円光寺 雅彦(指揮) Masahiko Enkoji, Conductor

桐朋学園大学指揮科卒業。指揮を齋藤秀雄氏、ピアノを井口愛子氏に師事。1980年ウィーン国立音楽大学に留学しオトマール・スウィトナー氏に師事。これまでに東京フィル指揮者(1986-1991)、仙台フィル常任指揮者(1989-1999)、札幌交響楽団正指揮者(1998-2001)、名古屋フィル正指揮者(2011-2019.3)などを務



Photo:K.Miura

め、数多くの公演を共にしてきた。

N響、読響、新日本フィル、東京フィル、東響、大阪フィル、九響をはじめとするほとんどの国内オーケストラ、海外ではブラハ交響楽団、BBCウェールズ交響楽団、ベルゲン・フィル、フランス・ブルターニュ管弦楽団に客演し、深い音楽性と適確な指揮で多くの聴衆を魅了。テレビ等の番組にも定期的に出演するなど、幅広い活躍を続けている。

出演日:11/24~11/27

松本 宗利音(指揮) Shurihito Matsumoto, Conductor

1993年大阪府出身。東京芸術大学音楽学部指揮科を卒業最優秀賞であるアカンサス賞を受賞して卒業。指揮を尾高忠明、藏野雅彦、高関健、田中良和の各氏に、ヴァイオリンをさわかずき、曽我部千恵子両氏に師事。藝大在学中にはダグラス・ポストック、パーヴォ・ヤルヴィ両氏のマスタークラスを受講。



東京シティ・フィルの指揮研究員を務めて指揮者としての才能を開花させ、2019年4月に札幌交響楽団指揮者に就任。これまでに東京シティ・フィル、札幌交響楽団、大阪交響楽団、群馬交響楽団、山形交響楽団、仙台フィル、名古屋フィルに客演。これからの音楽界を担う期待の指揮者の一人と注目されている。

札幌交響楽団 Sapporo Symphony Orchestra

1961年発足。北海道唯一のプロ・オーケストラとして、「札幌響」の愛称で半世紀をこえて親しまれてきた。透明感のあるサウンドとパワフルな表現力は、国内はもとより海外でも評価が高い。最高の音響を誇る札幌コンサートホールKitaraに加え、札幌の新たな芸術拠点となる札幌文化芸術劇場hitaruを会場とする定期演奏会のほか、北海道内各地や東京での定期公演、青少年向け演奏会など年間の公演回数は約120回。さらにアウトリーチ活動にも積極的に取り組んでいる。

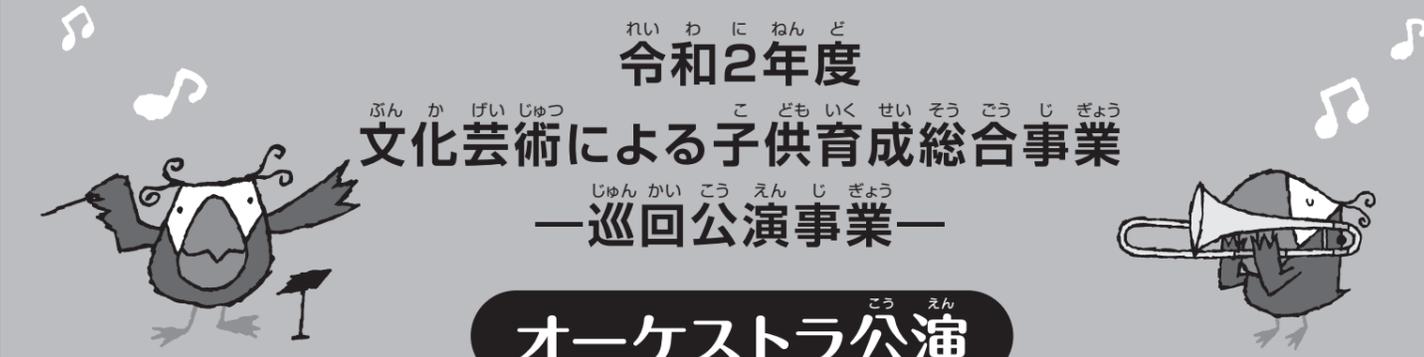


Photo:Y.Fuji

知ってますか? ~10月1日は「国際音楽の日」です~

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。



令和2年度

文化芸術による子供育成総合事業

一巡回公演事業一

オーケストラ公演

札幌交響楽団演奏会



Photo:Y.Fuji

「文化芸術による子供育成総合事業 一巡回公演事業一」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



今日の曲目

J.シュトラウス(1804~1849)

ラデツキー行進曲

「ワルツの父」と称されるヨハン・シュトラウスは、オーストリア帝国のウィーンを中心に活躍した作曲家、指揮者、ヴァイオリニストです。ラデツキー行進曲は、1848年革命の最中に、当時はオーストリア領であった北イタリアの独立運動を鎮圧したヨーゼフ・ラデツキー将軍を称えて作曲されました。クラシック音楽作品全体でみても有数の人気曲で、誰でも聴いたことがあるでしょう。

モーツァルト(1756~1791)

セレナード第13番 ト長調 K.525

「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」より第1楽章

モーツァルトはオーストリアのザルツブルクに生まれ、35歳の若さでウィーンに没しましたが、その短い生涯に約700もの作品を残しています。数多くの名曲の中でも最も有名な曲の一つが、弦楽合奏曲「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」です。「小さな夜の曲(小夜曲)」と訳されるこの作品は、モーツァルトの天真爛漫な性格そのままに、明るく楽しく、しかも気品に満ちた曲想で親しまれている名曲です。

チャイコフスキー(1840~1893)

バレエ「くるみ割り人形」より“花のワルツ”

ロシアを代表する作曲家チャイコフスキーは、美しいメロディーと、豪華なオーケストレーションで人気があります。「くるみ割り人形」は「白鳥の湖」「眠りの森の美女」と並んで彼の三大バレエと呼ばれています。「くるみ割り人形」はクリスマスの夜のお話です。主人公のクララがプレゼントに貰ったくるみ割り人形が、王子様に変身しておとぎの国の祝宴に誘います。各国の民族舞踊が踊られ、クララは楽しいひとときを過ごします

が、すべては夢の中の出来事であったというメルヘンの世界です。“花のワルツ”は全曲中もっとも華やかで有名な曲といえるでしょう。ハープによるロマンティックな導入から、管楽器、弦楽器にいたるまで魅力的なメロディーがあらわれる、軽やかで華麗なワルツです。

ブラームス(1833~1897)

ハンガリー舞曲 第5番

ブラームスは、パッサ、ベートーヴェンと並ぶドイツの大作作曲家です。三人の姓がともにBで始まることから、この三人は「三大B」とも言われます。ハンガリー舞曲は、ジプシーの踊りの音楽をもとにブラームスが作曲したものです。第5番がとりわけ有名で、テレビのコマーシャルなどでもよく使われますので、聴き覚えがあることでしょう。

外山雄三(1931~)

管弦楽のためのラプソディ

「あんたがたどこさ」「ソーラン節」「炭坑節」「八木節」など日本古来の伝統的音楽を素材としたユニークな作品です。指揮者としても有名な作曲家が1960年にNHK交響楽団の海外ツアーのアンコール演奏用に作曲し、圧倒的な人気を博しました。拍子木やウチワ太鼓、締太鼓、チャンチキなどの日本の伝統打楽器が活躍するリズムカルで即興的な作品で、誰もがどこかで聴いたことのある日本民謡のメロディが、西洋オーケストラの持つ豊かな色彩感によって華やかに奏でられます。



オーケストラ楽器のいろいろ

現在の「オーケストラ」という言葉の語源は、古代ギリシャの円形劇場の舞台と客席の間の平土間の部分で、「オルケストラ」と呼んでいたところをさすものです。オペラで器楽奏者達が演奏する場所が、16世紀頃より舞台の前に位置するようになってから、日本語でいう管弦楽団をそう呼ぶようになりました。

弦楽器

ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス&ハープ

いずれも4本の弦を有し(コントラバスには5弦もある)、主に弓で弦をこすって音を鳴らします。

ヴァイオリンはその中で主なメロディーの演奏を受け持つことが多く、第1ヴァイオリン、第2ヴァイオリンに分かれます。

ヴィオラはアルトの声域を受け持ち、楽器はヴァイオリンよりひとまわり大きくなります。

チェロは正確にはヴィオロン・チェロですが、略してチェロと呼んでいます。音域はヴィオラの1オクターブ下で、その音色はテノールの響きのようです。

オーケストラの土台となる低音部を受け持つのがコントラバスで、もう人間の声では到底出せない音域です。その他の弦楽器としてはハーブがあり、47本の弦を有し7個のペダルの操作によって音程を変えることができます。

木管楽器

フルート(ピッコロ)、オーボエ、クラリネット、ファゴット

フルートは、昔は黒檀などの堅い木をくり抜いて作られたものですが、現在では金や銀のものがほとんどです。ピッコロはフルートの約半分の長さで、1オクターブ高い



オーケストラのならび方 ~札幌交響楽団の場合~

ホールや曲によっていろいろなパターンがあります。

音域をもっています。

オーボエは縦笛の仲間、植物の葦を薄く削った「リード」を2枚重ねて束ねたものに息を吹き込み振動させて音を出します。

クラリネットは、1枚のリードを「マウスピース」という歌口に固定して、その間に息を吹き込み、その振動を楽器の管に伝えて音を出します。

ファゴットは、イタリア語で「薪の束」という意味で、木管楽器の低音部を受け持ち、オーボエと同じく2枚のリードを振動させて音を出します。

金管楽器

ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバ

いずれもマウスピースに唇をつけ、唇を震わせて音を出します。

ホルンはかたつむりの様な形をしており、角笛から発達した楽器で、ベル(音が出る場所)が後を向いているのが特徴です。

トランペットは金管楽器の最高音を受け持ち、華やかで勇ましい音色です。

トロンボーンは、唯一スライドを動かして音程を変える仕組みを持っています。オーケストラでは、アルト、テノール、バスの3種類の楽器が使われます。

チューバは金管楽器で最低音を受け持ち、弦楽器ではコントラバスの音域にあたります。

打楽器

ティンパニ、大太鼓、小太鼓、シンバル、トライアングル ほか

叩いて音の出るものはすべて打楽器といえます。ティンパニは最も重要な打楽器で、なべの様なかたちをしており、ペダルによって音程を変えることができます。

ほかにオーケストラでしばしば使われる打楽器として、大太鼓、小太鼓、シンバル、トライアングル、タンブリン、カスタネット、鉄琴、木琴など、数多くあります。



以上が通常使用される主な楽器ですが、現代のオーケストラでは、ここでは紹介しきれない様々な楽器がまだまだたくさん使われています。